



1969.2.16

KYOTO UNIV

No. -

STRUGGLE

京大全学共闘会議

強力な個人を用意 大衆武装——新たな質の展開

七
上

質をいつからシロシタの本
子七民主主義の学習の本
第三にわれわれの二三、一四關
争が切掛けた質は、「大日本武道
と云ふことであった。一、一〇〇〇
名の大日本武道部が登場し、か
ら四日一一杯、本部構内で武道部
隊格闘の練習の「ボクシング」
ーションを展開したといふことで
ある。大衆的な武道力を血肉化
の実現をさしかかるまでの段階への

めの連帯第3次（京大）で主体的にの大字解説本が実現されたのである。すなわち、京大全共闘の「十箇断罪スローガン」の提起が、それであった。すなわち、

（東大を含む四大学による）権力の大
学導制支配を、全国大学バレーイー
ド・ストでハヌネえ、二月中教
学の体を全部争ひ、全國学園
闘争に勝利せや。

運営協議会万
能の連帯第3次（京大）で主体的に的大字解説本が実現されたのである。すなわち、京大全共闘の「十箇断罪スローガン」の提起が、それであった。すなわち、
（東大を含む四大学による）権力の大
学導制支配を、全国大学バレーイー
ド・ストでハヌネえ、二月中教
学の体を全部争ひ、全國学園
闘争に勝利せや。
運営協議会万能の連帯第3次（京大）で主体的に的大字解説本が実現されたのである。すなわち、京大全共闘の「十箇断罪スローガン」の提起が、それであった。すなわち、
（東大を含む四大学による）権力の大
学導制支配を、全国大学バレーイー
ド・ストでハヌネえ、二月中教
学の体を全部争ひ、全國学園
闘争に勝利せや。
運営協議会万能の連帯第3次（京大）で主体的に的大字解説本が実現されたのである。すなわち、京大全共闘の「十箇断罪スローガン」の提起が、それであった。すなわち、
（東大を含む四大学による）権力の大
学導制支配を、全国大学バレーイー
ド・ストでハヌネえ、二月中教
学の体を全部争ひ、全國学園
闘争に勝利せや。

の意を貫徹する所としていた。しかし、彼の反革命改進院時代から、その意が失墜する所もあつた。おのずから明るい方に向かうる防衛が敵の監視からか、こじらぬといふが至りに命令され、前事をしたがて、彼の反革命改進院大會が無条件の防衛であった結果をもって頭の痛じて、暴力一般論に過ぐすといつてはならぬ。十一月九日の法廷で、眞實から自己をむけてはならないと制訂したのが、なんとなつて時計をわからなかつた。そこで、見えていたものを見失わざつてはならぬ。つまり、社会主義者として封鎖されなければならぬ。つまり、社会主義者として封鎖されなければならぬ。つまり、社会主義者として封鎖されなければならぬ。

せめえらうはかつ しの

われは實に政策的外層的のスロー
ガムへの展開を禁じ、主要など
それを追求してきた。つまり、防衛
的政治から改革的な主張的な
の立場で明るい
政治への転換が出来なければ
ならなかつたのである。これが、
第二段階の特質であつた。そして
この質的転換は、理念的には、去
介入主義」として

久松義正は、この論文で、明治維新後、日本が世界に開かれていく过程中で、その政治的・社会的・経済的な変化を、その歴史的背景と結びながら、詳細に分析している。また、その変化が、日本の社会構造や文化、思想などにどのような影響を与えたかについても、多くの洞察を提供している。

なかなか、明るかにしないとか
ほんならぬ。一二三四點
日共＝民青派について何で
まだのまゝ、一三四、四點
一四五日の代議員大會を政
府の反対から連日一二〇〇
とした鬭争であつて、それ
を教養部の開拓が圖つて、
隙ストライキを爆発するた
つゝ闘争的彼は直面的
とした集会であつて、日共
が亦が、その運営無茶
徹するたゞ手をあげた
が、彼の防衛的防衛的
の集会であった。それ
にして明るにしめたであつて、
彼の代議員大会が、なむ
大学の後援を得たものとする
眞實敵だしてこの過激的人
の「ナチアゲ」大会であ
るギヤを強調的の圧迫す
るの、改革帝帶連大會で
彼の、「我の運営も、筆をも
当局一層の補助別動
の「改革帝帶連大會」で
彼の、「我の運営も、筆をも
大学の後援を得たものとする
眞實敵だしてこの過激的人
の「ナチアゲ」大会であ
るのからう」とおひま田中
民青派の大會の本性的性格と
民青派の大會の本性的性格と
準備過程が、理論的には、ハッ
リと云々舞弊主義によって重々か
らじてと見ゆるにからぬ。
まことに、更にこの數日まえから
なまし、更にこの数日まえから
準備過程が、理論的には、ハッ
リと云々舞弊主義によって重々か
らじてと見ゆるにからぬ。

の以上の点を踏まえ、なれば、二、三つの問題が生じる。第一は、現政府の反体制運動に対するものである。すなはち、この反体制運動は、國家権力当局との抗争の結果生じたものである。したがって、この反体制運動は、国家権力当局との抗争の結果生じたものである。

は質の展開

支那事變・満蒙事變の全國學園闘争は極めて同時的かつ連續的性格をもつたものとして現実化しているのは、この社會主義者たる私達の動搖振起されているからだ。大學生と組合せざる者たるが、七年安田義興闘争と並んで、またそろしなければならない所は、ここにある。我々は動搖騒ぎに入っているのだ。この点を踏まじてわれわれは、共團會議の自動的な結合の動き、たゞに金井圓滿なるものの全國組織化の流れ、その圧倒的力量の定型化によって議員大會のアッチャードである。この間、その説明をすることはできない。しかし、われわれは、金井圓滿の主張する、一提起したとしているが、その内容を理解するには、スローガンを肉化せよ、この力と対動スローガンを言ふ、スローガンの政治的軍事的内実をとを、われ

「公認」は國家権力がわれわれに武器・資材を運びし、攻撃する際に用いるべきもの——たゞさうして体制（正當防衛）の偽善的宣傳で純化されなければならないことをいつつ）を固め、外部からこの京大キャンパスにお切り SST とトウサキされた場所で、三重権力が放逐¹がつらうた。非公開のゾロアクダ大会を終り、現存の局面でハヤキリして、第 3 は、自分の反革命目的を實現するため反革命暴力を二日前とは、われわれ京大民衆は日共に対する抗争力²を用意してたどり立つ。その圧倒的力量を物質化して、その陰然たる非公開性で、主導力は当局との二重権力³本部対談反対を大衆的には口に口に進み、要請されてたどり立つながらも、事実上はまわめて「ながらも」、わがや、周囲の法的手段⁴本部の反対抗議などの位置を強調して強硬なパリケードではない。現在の局面は要請行動、本部対談を行なったとしている。京大キャンパスを徹底封鎖したことである。本部対談の政治的意義は既述したとおりである。そこで、本部対談に敵対する立場として直面する問題を大別的に明かにするといふことである。